

# JHF REPORT



2013年パラグライディングアキュラシー日本選手権in南陽より。DC(0cm)を出した日野選手。

## 100年後に飛行の自由を伝えるために。

JHF会長 内田 孝也

2014年がスタートしました。今年も、ハンギングライダー・パラグライダーが100年後の日本の空でも自由に飛べることを、フライヤーひとりひとりと一緒に考えたいと思います。

わたしがJHFの理事に初めて就任してから、7回目の年明けを迎えました。わたしたちのハンギング・パラ界はどうなっているのか振り返ってみます。

まず、財政の危機は前任者の施した止血で乗り越え、いまは健全な運営になりました。共済会事業の傷に、早期に見切りをつけて従来の保険に戻ったことが幸いで、危機的状況であるものの第三者損害賠償責任は制度を維持できています。また、右肩下がりであった、愛好者有効数も何とか昨年から横ばいに下げ止まりました。管轄官庁まで巻き

込んだ法人改革には、適度なタイミングで公益法人化の対応ができました。さらには、メディアでポジティブな扱われ方をする例も増えてきています。

わたしたちの環境はこのように推移してきましたが、フリーフライト（注：規制少なく飛ばせていただく自由）を維持するわたしたち自身の体質はどうなっているでしょうか。



FOR ALL SPORTS OF JAPAN  
JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

### 今年も安全フライトを

フライヤーなら誰もが「安全でなければフライトを楽しむことはできない」と知っているはず。気象情報などを細かくチェックするのはもちろん、自分自身の体調管理もしっかりと行って、楽しいフライトを。

ハング・パラの教員は、以前は47都道府県連盟の自助努力による、各人への推薦付与によって資格の更新をしてきました。全国でレベルを合わせるため、教員更新講習会を教員検定員が実施するように改めて6年が経過しています。現在では教員にステップアップしたい助教員は、各地の教員検定員の下で受検します。JHFが全国統一された知識技能体系を伝達するシステムは、教員検定員の方々に合宿集合教育に参加してもらって担保しています。

それでは、37年も前からフライト指導をし、スカイスポーツの普及を推進してきた現場は、質の向上や若手の活性化が進んだでしょうか。正直に申し上げて、パラグライダーが登場した27年前に活躍した、第一線の指導者層がみんな

揃ってそのまま高齢化してきたのが現実だと思います。

一般フライヤーの場合、パイロット証を取得すれば、それが永久資格となり知識技能が固定化することが考えられ、37年前、27年前のパイロットが、指導者層と同様そのまま高齢化している世界が想像できます。近年の重大事故ではパイロットは経験年数の長い人が多く、若年特有の失敗が原因と認められるものはほとんどありません。

安全ではない、というレッテルを貼られたスポーツに繁栄の道はないように思います。

全国のほとんどのパイロットは、横の繋がりを持ち、JHFからの発信情報に注意を払って自己研鑽されていると思います。しかし、いま一度、自分たちひと

りひとりの安全点検が必要だと思うのです。2014年度、JHFはこの視点での事業を計画する予定です。

これまで多くの方々の努力によってJHFという社会的な器を整備してきましたが、それだけで、自主規制の下で空を飛ぶ自由をいつまでも許していただけるのか。体質を改善し、100年後の子孫にこの自由をきちんと残すために、いま事故撲滅に本気で取り組む必要があります。自分さえ自由に飛べれば、事故で死んでしまっても良い、というのは無責任な考え方です。

未来に責任を持つために、全てのフライヤーに進んで行動していただきたいと考えています。皆さま全員のご協力をお願ひいたします。

## JHFの動き

### 歴史編纂事業スタート

#### 阿部郁重先生を囲んで座談会

2013年11月12日、JHF事務局会議室で、阿部郁重先生を囲んだ座談会を開催し、その模様をビデオに収録しました。この会は、阿部先生が一般財団法人日本航空協会の「航空関係者表彰」において航空亀鈴賞を受賞されたことをきっかけに、日本にハンググライディングが紹介された当時をよく知る方々にお集まりいただいたものです。

ハンググライダーは1970年代の初頭に、その原理と写真が報道されると、世界同時多発的に自作され、各地でフライトへの挑戦が盛んになりました。日本でも各地に自作機で飛び始める若者がいましたが、70年代半ばに製品としてのハンググライダーを扱う事業者が現れ、本格的に普及しました。

当時の日本では、空を飛ぶものは、滑空機を戦前からの例外として、すべて行政の管理・許認可制の下に置かれていました。阿部先生は海外の文献翻訳を通じ、世界のハンググライダーへの評価と普及を、いち早くキャッチしていました。国により違いはあるものの、誰もが自由に飛べる制度の大切さを国内に伝え、日本でのフリーフライトの実現を導いてくださいましたといえます。

先生は、2010年に日本航空協会から発刊された「日本の航空100年」誌に、スカイレジャーとしてハンググライダーの歴史をおまとめになっています。JHFで

は、文献だけでなく、混沌としていたであろう黎明期の記憶を何とか肉声で残せないだろうかと、今回の座談会を企画しました。

先生を中心に、当時フランスで技術を身につけ日本にハンググライダーを持ち帰った岡芳樹さん、冒険家としてエベレスト滑降から次の挑戦を模索していた只野直孝さん、水上スキーの選手として一流であったことでボートでトーリングするハンググライダーと出会った鈴木康之さん、自分で設計図を描き自作することからはじめ後に国産ハンググライダーのメーカーとなる中村ヤスヲさん、同じく自作の経験から安全性確保に活躍する下山進さんという顔ぶれにお集りいただきました。

航空スポーツを統括し監督官庁と向き合っていた日本航空協会、そこに有識者として関与された阿部先生、それぞれの現場で自己実現としてハンググライダーに向き合っていた第一人者たちは、草創期にどのように連携したのか。各人のハンググライダーとの出会いとその後の活動で何が起き、それがどのように繋がったのか。記憶をたどる座談から、貴重な記録を残すことができました。

JHFでは、歴史編纂事業の出発点として、座談会での発言の背景確認などを進め、「新スポーツが誕生する時、社会との関係はどうだったのか」というテーマに取り組んでいきます。

### JHF教員検定員を募集

#### 3月下旬に研修検定会を開催

JHF教員検定員制度は以下の目的を達成するために設けられました。

- 1 全国各地で教員検定、助教員検定が受検できる環境づくり
- 2 全国各地で開催される教員、助教員の更新講習会の講師を行う
- 3 安全性委員会の事故調査員として事故調査を行う

この制度は全国各地においてハンググライディング、パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化など、指導的役割を担っていただの方を認定する重要なものです。

現JHF教員検定員30名の方々の任期が2014年3月末に満了するにあたり、2014年度から3年間、教員検定員としてご協力いただける方を募集します。応募された方には3月24日～26日の3日間、教員検定員研修、検定会にご参加いただきます。

応募には、住民票のある都道府県連盟の推薦が必要です。詳細は都道府県連盟にお問い合わせください。

### ハンググライダー安全セミナー 参加者を募集

安全性委員会からの提案により、ハンググライディングパイロットを対象とした安全セミナーを、2013年度事業として追加実施することが決まりました。このセミナーはベテランパイロットの方が気



ペテランも初心に戻ってセミナーに参加。

軽に参加でき、ティクオフとランディング技術の確認と練習ができるものです。

第1回目は11月17日に福岡県でトーナメントを利用したハングブラッシュアップセミナーを開催しました。

セーフティートーイングを使用しているため、斜面を登っての練習ではなく、平坦な所で行いますので簡単に移動ができます。また、機体の左右をワイヤーで引いており、ロックアウトする心配もありません。楽しく参加者の交流も深まり、良い場となりました。機材を持ち込まず、手ぶらでの参加も可能です。

参加費は1日1,000円、各回の最大定員は50名です。参加をご希望の方は、JHF事務局にご予約ください。今年度は第4回まで開催します。



セーフティートーイングで基本を確認。

#### □第2回：広島県 神ノ倉

2014年1月18日・19日(終了)

#### □第3回：滋賀県 荒神山

2014年2月1日・2日

#### □第4回：茨城県内

2014年2月22日・23日

### 第3回JHFフォトコンテスト

#### 作品を募集

JHFは、ハンググライダーやパラグライダーが多くの人々の目に触れることができるために必要だと考え、フォトコンテストを開催しています。第1回は346点、第2回は248点の力作が寄せられました。今年も多数の方の素晴らしい写真を期待して第3回フォトコンテストを開催、ハンググライディング、パラグライディ

ングの楽しさ、美しさを表現する写真を募集します。応募締切は2014年8月31日必着予定。応募方法など詳細は改めてご案内します(JHFレポート/JHFウェブサイト)。

### オールドパイロットの安全性向上のために

JHF2014年度事業の安全啓蒙活動の一環として、パイロット技能証保持者に最新情報を提供することを目的とした講習会を各地で開催する予定です。

現在、安全性委員会、教員スクール事業委員会、制度委員会のメンバーで詳細を検討しています。具体的なことが決まり次第、JHFレポート/JHFウェブサイトでご案内します。

### 補助動力付パラグライダー

#### 副読本を準備中

補助動力委員会が中心となり、JHFパラグライディング教本の副読本として、補助動力付きパラグライダーの練習テキストの発行準備中です。もうしばらくお待ちください。

## 学連ニュース

### ■PG新人戦2013報告

2013年11月2日・3日に山形県南陽スカイパークで、パラグライディングの「新人戦2013」を開催しました。(同時に「みちのくフライヤーズミーティング」も行われていました。)

今回新人戦に参加した選手は、北は青森、西は福井からの初飛び2年以内の学生フライヤー。総勢9名が南陽の空で個々の技術を競い合いました。

初日は、朝方に気温が2度まで冷え込み、近年稀に見る濃い霧が発生し、正午頃にゲートオープン。フライト終了まで逆転層に覆われ、新人戦には最も良い条件と言えるコンディションであり、この日は3ラウンド成立しました。1ラウンド

目は初めてのエリアで緊張している選手もいましたが、2ラウンド目からは僅差で良い結果を出している選手が多かったように思われます。夜にはレセプションがあり、全国から来た学生フライヤーたちが交流を深めました。また、各大学の1年生が中心に行う裏新人戦もあり、皆楽しい夜を過ごせたものと思います。

2日目は、午後より悪天候が予想されており、大会開始を2時間早めました。コンディションとしては静穏であり、選手にとって競技しやすいものであり、正午まで3ラウンド成立しました。その後雨天となり、ゲートクローズとなりました。

若杉厚志君(山形大)が新人王の栄

冠を手にしました。また、今大会唯一の1年生、木村剛仁君(福井県大)は2位と好成績되었습니다。

大きな事故や怪我もせず、無事に大会を開催できた事を安堵しています。

最後に、協賛をいただいた企業の皆様、及び選手、大会関係者の方々に深くお礼申し上げます。

1位	若杉 厚志	山形大学
2位	木村 剛仁	福井県立大学
3位	松木平 航	弘前大学
4位	糟谷 あづさ	山形大学
5位	柴田 晃輔	獨協大学
6位	田畠 万葉	東北芸術工科大学



新人戦にふさわしいコンディションで競技できた。



選手もスタッフもサポートも笑顔で大会を終えた。

# 飛行と年齢

医師 立山 俊朗

私たちは安全な飛行を目指していることは言うまでもありません。しかし体の自由がきかなければ話になりません。どの年齢でも気にしておかなければならぬ病気や症状がある一方、加齢とともにさらに注意を払う必要が出てくる病気や、身体能力の低下、心身の不調があります。2年前にJHFレポート196号で、飛行と健康というテーマでいくつかの注意点を喚起させていただきました。今回は加齢に伴う身体の変化を考慮した提言を示したいと思います。

## 加齢によって身体機能が低下 思考・判断力も例外ではない

まずはJAF Driver's Dock 運転適正チェック(<http://www.jaf.or.jp/eco-safety/safety/ddock/>)を試みてください。最初は自分の年齢を入力してチェックを受けてください。次に30歳と入力してチェックを受けてみてください。

結果はどうでしたか？私は愕然としました。私（60歳）は最近車庫入れが下手になったことに気づいてはいましたが、車も飛行機も安全に運転・操縦でき

ているので、もっと良い成績だと思っていました。

「高齢者の労働能力（労働科学叢書53）」には、さらに認めたくない現実が書かれています。それは、50歳代すでに20歳代に比較してすべての面で機能低下があり、特に運動調整能、比較分別能、学習能力、記憶力、免疫力回復、視力が半減しているということです。さらに平衡機能や聴力は若い時の30%まで低下しています。比較的保たれているのは筋力だけであり、思考・判断力すら25%低下します。「若い者には負けない」と自慢できるものは何も無いらしい（表を参照）。

40歳を超すと全産業における職務災害被災率が上昇し、重篤な災害に遭う比率が高くなることもわかっています。また40歳を超すと今まで何も異常が無かった医学的検査でも異常が出始め、未治療であると加齢に伴いそれらのデータは右肩上がりでさらに悪化していく。これが現実です。

## 安全飛行のための健康体調管理 まず健診を受けることから

2009年米国全航空機安全記録を見ると、1年間で1474件の事故があり、致死的事故は272件。10万飛行時間で7.2件の事故が生じ、1.33件の死亡事故が起きています。その中で乗客輸送業務機の事故は非常に少なく、飛行時間が長いのに全体の5%しかありません

ん。運行が管理された中での事故率は非常に少ないことを示しています。

乗客輸送業務機（航空会社）では、パイロットの健康体調管理が重要な仕事です。2008～2009年の米国での事故例は全体で460件あり、60歳以上のパイロットが操縦中に起こした健康上の問題は7例。心臓や血管系の疾患4例、精神的問題が3例でしたが、この値は若年層と比較して多いわけではありません。すべてのパイロットは航空身体検査を受け認証されなければ飛行の許可は下りず、特に定期旅客機機長の検査は厳密であり、年齢が上がるにつれてその検査間隔が短くなります。そのため彼らは自己健康管理に非常に気をつけています。

航空身体検査証明制度の目的は、航空機運航業務を安全に遂行するために必要な心身の状態を保持しているかどうかを確認することです。この証明が無ければベテランパイロットでも航空機の操縦はできません。検査項目は一般的な人間ドックでの検査に加えて、視力（遠方視、近方視）、色盲、聴力、眼圧測定、平衡機能、心電図検査が必須。持病や過去の病歴、服用薬が記録として残ります。検査異常や病気が疑われたら専門医での精査にまわされ、その報告書に対して審査が行われて最終的な検査結果が出ます。一度不合格が出ると治療後に再審査を受けることになりますが、その間操縦はできないし、検査はさらに厳しくなっていきます。

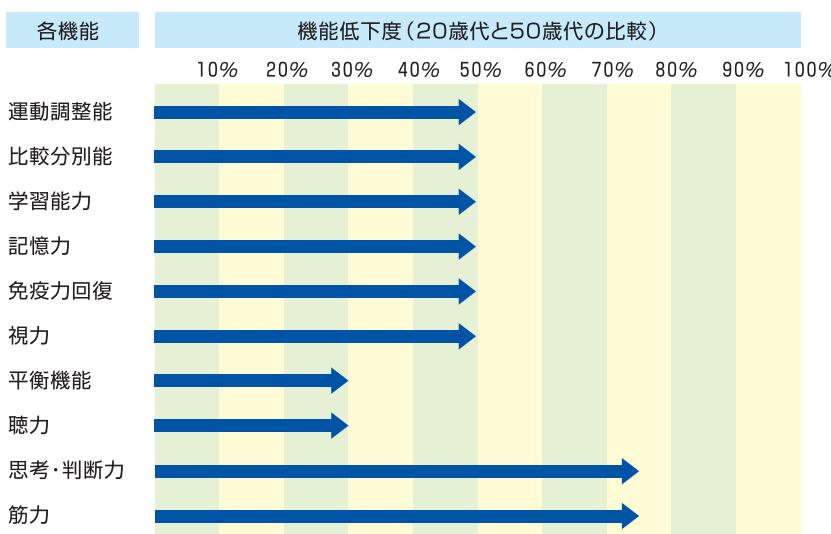
では、パラグライダー・ハンググライダー・パイロットにも必要な検査はあるでしょうか？

40歳以降のパイロットは、糖尿病の有無、高血圧の有無、高脂血症の有無、不整脈や心筋虚血の有無の確認のために、血液検査、尿検査、心電図、呼吸機能検査、血圧検査を受けた方が良いでしょう。この程度の検査は、人間ドックや社内健診で通常行われているレベルです。そして健診でのアドバイスに従い必要な治療を受けておくと安心です。

高齢者が起こしやすい飛行中の意識消失の原因には、脳卒中、心筋梗塞、狭心症、不整脈、呼吸機能低下があり、その原因となる疾患や習慣は、高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙です。

航空機事故の発生は、離陸時43%、着陸時37%と、離着陸時で80%を締めます。このうち50%はパイロットエラーで

表[年齢に伴う機能変化]



齊藤一、遠藤幸男：高齢者の労働能力（労働科学叢書53）労働科学研究所1980より

す。2007年より米国乗客輸送業務機業界では定年が60歳から65歳へ引き上げられていますが、2008年から2009年の2年間で、60歳以上のパイロットの事故はすでに述べたとおり7件（全件数は460件）。心臓発作3件、血管梗塞1件、心身症3件で、安全率は若年者と同じでした。厳密に管理されていてもこの程度の事故は避けることができない。そのためパイロットは2名乗務し、そのリスクを軽減させています。

## 疾患の芽は40歳頃から 60歳代から発症の可能性増大

フライト中に意識低下・消失で飛行不能になる疾患は、心筋梗塞、狭心症、解離性大動脈瘤破裂、強度の不整脈、肺梗塞、脳梗塞、脳出血、精神疾患等です。精神疾患を除けば多くの症状に加齢が影響しています。すべての疾患は40歳頃から用意され、60歳代から発症の可能性が右肩上がりとなります。

また認知、判断、操作の誤りや遅れが50歳頃より目立ち始めます。これらは労働災害や車の運転においても同様で、検討課題となっています。認知症の話は問題外と思われる所以深入りは避けますが、認知症発症率は60歳代で12%、70歳代で30%となり、80歳代で初めて50%を越えると言われており、認知症患者の17~40%が交通事故を起こしています。また、認知症状と診断されて3年以内に車の運転は困難、危険となることがわかっています。

JHFの2013年末のフライヤー登録数は8577名。そのうち40歳代から60歳代が6564名で76%を占めており、中高年者が主流であることがわかります。事故報告数は2008年から2013年5月までで84例。事故の程度を無視してこの5年半の事故率を計算すると、0.97%（84／8577）、年率では0.18%です。これを年齢別で見ると60歳代が1.06%とやや高めですが、20歳代は1.25%とさらに高い。年齢の高さと事故率の高さは比例していません。70歳代以上のフライヤーは人数が少ないので、事故率は0.80と最も低率でした。

高齢パイロットの事故原因は、天候や技術的問題ではなくパイロットの健康が主因であることは想像に難くない。このことは車の運転事故でも航空機事故でも同様です。



楽しいフライトは自身の体調管理から。無理せず安全マージンを十分にとって飛びたい。撮影:橋本みさ紀

## 飛び続けるために体調管理 慣れた空域で無理のない飛行

年齢による心身の変化が及ぼす飛行能力への影響を考えてきましたが、年齢による能力の低下を自覚して、飛行に対する体の準備と無理をしない飛行を楽しむのであれば、事故は増加しません。39歳までは健康を気にしなくても多くの場合は問題ないのですが、40歳からは身体能力の低下や臓器の機能変化に伴い隠れた病気が起きやすいので、健診を受けることが必要です。この年齢からの健康管理が、飛び続けるためには大切なのです。特に成人病である高血圧、糖尿病と高脂血症は、症状無く静かに進行し重要な血管系の狭窄や脆弱化を招くので、早期発見、早期治療開始で症状の発現を抑え、遅らせることが重要です。

また、喫煙習慣のある人は、高々度飛行での血液酸素濃度の低下が重なると心臓血管系疾患や脳疾患を起こしやすいので、喫煙をやめることが最良です。少なくとも、フライト前の1服は影響が大きいので、喫煙は1日のフライトが終わってからにして欲しい。

最後に、50歳以上のパイロットに一言。まずは体調管理に気をつけて（良眠、適度の食事、十分な水分補給、処方薬は服用、寒さ対策）、そして慣れた空域で無理しないで飛行を楽しんでください。そうすれば中高齢者の事故率はさらに一段低下するはずです。

2007年米国の記録では、105歳まで軽飛行機Cessna 182を飛ばしていた男性がいました。



立山俊朗  
TATEYAMA Toshiro

所属:緩和会  
横浜クリニック 理事長 医師  
専門:ペインクリニック(痛みの治療)  
専門医 頭痛専門医  
麻酔専門医  
F A A 認定 Aviation Medical Examiner  
機械工学  
趣味:日曜大工  
パラグライダー(現在活動休止中)  
軽飛行機

# 「開け、空!」という思いをこめて。 八谷 和彦

2013年後半、最も注目された『パイロット』といえば、この人だろう。

八谷和彦(はちやかずひこ)さん。オープンスカイ・プロジェクト(※)と銘打ち、メーヴェを彷彿とさせるジェットエンジン付き小型飛行機を作り、自ら飛行した。国民的アニメ『風の谷のナウシカ』の主人公、ナウシカが自在に操る翼、あのメーヴェである。そのフライトの様子はインターネットをはじめさまざまなメディアで紹介され、ボーイング社製でもない、エアバス社製でもない、小さな自作航空機に人びとの目は吸い寄せられた。

ハンググライディング・パラグライディングを愛好するJHF会員諸氏は、もちろん敏感に情報をキャッチして、八谷さんの美しい機体に興味を抱いたに違いない。そこで、実はご自身もJHFフライヤー会員でもある八谷さんにお話をうかがつてきた。

## ※オープンスカイ・プロジェクト

八谷さんの本「ナウシカの飛行具、作ってみた」の最初に記されているプロジェクトの目的を次に引用する。

**【目的】**このプロジェクトは、「風の谷のナウシカ」に出てくる架空の飛行具を「実際に飛行可能な試作機」と

して作り、試験飛行(ジャンプ飛行および場周飛行)を成功させることが目標です。安全性を考慮し、パイロットはプロジェクト責任者である八谷和彦が務めます。また、試作機を量産する予定はありません。

## ナウシカみたいな人が リーダーだったらいいのに。

◎八谷さんは「ポストペット」などの作品で知られるアーティストだ。エンジンを使った作品も発表しているが、そもそも、なぜ作品として空を飛ぶもの、「ナウシカの飛行具」を作ろうと考えたのか。

「作ろうと思ったきっかけはいろいろありますが、大きなきっかけはイラク戦争が始まったことです。9.11以降は国と国が戦うというよりはテロの戦争になってきて、市民が市民を直接攻撃するようになっている。そうなると、安全保障上一番いいのは、よその人や国に恨まれることをしない、戦争をしないということだと思うんです。ところが、当時の小泉首相はイラク戦争に賛意を表明しました。あっという間に戦争に関わることを決めた日本の政府に対して不信感というか反

感を持って、リーダーとしての小泉さんに不満を持ったんですね。当時、コミック版の『風の谷のナウシカ』を読んでいたのもあって、ナウシカが日本の首相だったらいいのにと思いました。ただ、僕はナウシカのような人じゃないので、ナウシカが乗る飛行機を作って、『そういう戦争に関わるのは正しいことなのか』と訴えるというか、作品で示そうと、このプロジェクトを立ち上げたんです。あれからもう10年以上経って、今もシリアルで似たようなことが起きていますけれど。

飛行機を一生に一回作ってみようと、前から思っていたというのもあります。90年代後半に、ジェットエンジンを使ったホバークラフト的な作品「エアボード」というのを作りましたが、もともとジェットエンジンは航空機用に生まれたものなので、それを使ったシリーズでやるんだったら次は飛行機だな、と思っていたんです。ジェットエンジンもだんだん推力が上がってきているのは知っていたので、2000年代になったらこのぐらいのエンジンで人が飛べるぐらいになるだろうと予測していて、実際に2004年にジェットエンジンを購入しています。」

## 飛行機を作るだけじゃなく 空を飛ぶことを作品に。

◎プロジェクトの始動は2003年。この飛行機が空を身近なものにしますようにと「開け、空!」という思いを込めて、オープンスカイ・プロジェクトと名付けたという。プロジェクトの第一段階は2分の1サイズ模型を制作して実際に飛ばすこと、第二段階でゴム索トーリングの実機を制作し滑空する、そして最終段階でジェットエンジン搭載機を制作し場周飛行をする。

多くの人が夢見る飛行機。その形を作るだけでも作品として成立するだろうが、八谷さんは自分自身がテストパイロットとして飛行している。ボディバランス強化のためにブラジルの格闘技「カポエイラ」を始め、2004年にハンググライダーによる飛行訓練を開始。プロジェクト



2013年夏、3331 Arts Chiyodaで開かれた個展「Open Sky 3.0 欲しかった飛行機、作ってみた」にて。ゴム索発航滑空機のM-02。この機体は70本を超える試験飛行を経て、金沢21世紀美術館の収蔵作品に。撮影:小久保陽一

の完結をめざし、空への一步を踏み出した。

「JHFの会員の人たちのように僕も飛ぶことに興味がありましたし、飛行機を作ることだけをやりたかったんじゃなくて、空を飛ぶことを作品にしたかったんです。このプロジェクトは、メーヴェの機体コンセプトを参考に『本当に飛行可能な航空機』として飛行機を試作し、試験飛行をするものなんですが、新規の試作機で安全性が担保されるわけじゃないので、やはり作った本人が飛ばないとだめだろうなと。この機体の操縦の難易度は想像できないものの、せめて既存のハンググライダーでソロで飛ぶのは必要と思っていました。

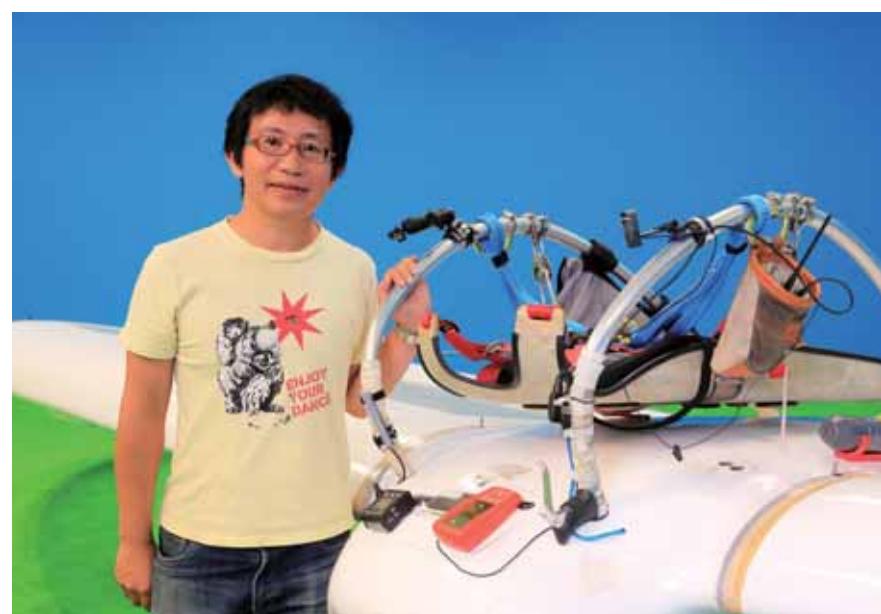
メーヴェのような飛行機を作ろうと思って最初に考えたのは、現存する機体で一番近いのは何だろうということです。Swiftというリジットウイングハンググライダーが近いと思ったので、Swiftで飛んでいる中村昌彦さんに会いに行きました。おおまかな翼面積やパイロットが翼の上に乗ることは決めていましたが、まずは現物のSwiftを参考にしようと、中村さんの機体組み立てやフライトを見せてもらつたんです。そのときハンググライダーの訓練を始めるなら、自分が住んでいるところからだと茨城県の板敷にあるスポーツオーパカイトというところがいいよと教えてもらって、オーパスクールに行くことにしました。

練習を始めたのは2004年4月19日。『Swiftの上に人間が乗るような形で飛行機を作ろうと思っていて、その訓練としてハンググライダーに乗れるようになりたいんです』と、桂敏之先生に伝えました。なるべく早くソロフライトできるように平日に集中的に練習に行って、タンデムで23~24本飛び、6月9日早朝にファーストソロ。特訓に近い感じですね。

ファーストソロは穏やかなコンディションでしたし、そんなに緊張したり怖いということはなかったんです。むしろ、タンデムの機体でずっと飛んでいましたから、『軽いな、一人で飛ぶと』と思つたりしましたね。」

**じゃじゃ馬を想定していたら  
素直な機体だった。**

◎翼を作って飛ぶことを作品にといつても、飛行機作りではアマチュアの八谷さ



八谷さんとM-02Jの「コクピット」。パイロットはここに腹ばいに乗って機体を操縦する。撮影:小久保陽一

んが、人間を乗せて飛行する機体を製作することは難しい。国内で飛行機の開発ができる人を探し、有限会社オリンポスの代表、四戸哲(しのへさとる)さんに出会う。

「やっぱり実機はプロフェッショナルにお願いしないとだめだと、飛行機開発の専門家を探しました。最初は大学の先生はどうかと考えましたが、大学で飛行機を作っているという事例が少なくて、人材が見つからず悶々としていたとき、たまたまネットで四戸さんを知ったんです。これはもう四戸さんしかいないだろうと会いに行って、機体作りを引き受けもらいました。

その頃は、2006年くらいに最終段階まで行けるんじゃないかと思って、四戸さんに設計・製造を任せ、僕はハンググライダーの訓練をしたり、自分以外に操縦できる人も必要なのでパイロットを探したりとか、そういうことをやっていましたね。実際には2006年にゴム索曳航の滑空機ができて、2013年にジェットエンジン付きができましたから、想定よりかなり遅れましたけど。」

◎2006年4月、人力によるゴム索曳航滑空機、M-02の初めての試験飛行が成功。無尾翼機であることから心配されたピッチ方向の不安定もなく、問題なく操縦ができた。「じゃじゃ馬を想定していたら、わりと素直な機体だった」というのが八谷さんの感想だ。テストを重ね、安全に飛べると自信がついた9月には、静岡県朝霧高原にあるキャンプ

場「ふもとっぱら」で公開試験飛行を行う。この日は公募で選ばれた女性パイロットもM-02でフライトした。

「M-02のピッチコントロールはハンググライダーに近いので、ハンググライダーをやってる人なら誰でも…とまではいわないけれど、わりと簡単に適応して飛べると思います。このときの公開試験飛行では、夏目裕美さんという十数年のハンググライダー経験がある方と、グライダーパイロットの橋本喜久恵さんに乗ってもらいましたが、ほぼ無風のコンディションだったこともあり、ふたりとも普通に離陸して操舵して着陸できました。

なぜ女性パイロットに飛んでもらったかというと、プロジェクトが走り出した当初から僕自身が機体に乗ることにしていましたが、「やっぱり、ナウシカのように操縦できる女性パイロットも必要だ!」と考えたんです。それで、2004年2月の六本木クロッシング展で機体の実物大平面図を展示して、女性パイロットを募集しました。約60名の女性が応募してくれて、この飛行機で空を飛んでみたいと思ってくださる方がこんなにいるのかと、本当に嬉しかったですね。さっそく面接をして、主にどんな運動をしてきたかを聞いて、最終的に夏目さんと橋本さんに飛んでもらうことになりました。」

**問題を乗り越えることも含め  
「作品」にする。**

◎プロジェクト第二段階をクリアし、いよいよ最終段階に入る。それまで、さまざ



M-02Jに乗って試験飛行中の八谷さん。プロジェクト最終段階の場周飛行に備え、練習を積んでいる。撮影:石澤瑠禪さん

まな課題はあったものの、プロジェクトは概ね順調だった。機体の設計に問題がないことが実証され、次は動力を人力ゴム索曳航からジェットエンジンに替え、まずジャンプ飛行、そして最終的には場周飛行を行う。

八谷さんは、ジェットエンジン搭載機に乗るために、動力機の感覚を身につけようと、体重移動型の超軽量動力機、トライクでの訓練飛行を始めた。

「トライクの訓練を開始したのは2007年10月末です。もともとハンググライダーの訓練をしたのは、このプロジェクトで作る機体は重心移動など体を使った操舵をするものになるだろうと想定していたからです。ただハンググライダーはランチャー一台から走り下りての離陸なので、動力付きの離着陸に慣れるために、ジェットエンジン搭載機M-02Jと同じような速度、重量、翼面積を持ち、体重移動で操縦するトライクでの訓練を始めました。

僕のホームエリアは千葉県の野田市スポーツ公園です。野田市が所有する利根川河川敷のエリアで、ラジコン、モーターパラグライダー、トライクが仲良く飛んでいます。ここでトライクでの飛行を重ねてM-02Jの試験飛行への準備

を続けました。操縦訓練だけでなく、年間の気象環境を知ることやエリア関係者との人間関係を作ることに時間をかけてきたんです。周囲の理解を得ることは必須ですからね。」

◎八谷さんは「問題があるなら、その問題を乗り越えることも含めてやる、作品にするというのが僕のコンセプトです」というが、M-02Jの完成までには、技術面や資金面など、さまざまな問題が次々と降り掛かってきた。それらをひとつひとつ乗り越えていくうちに、プロジェクト始動から10年の歳月が流れていった。

「ゴム索だと初速があつという間ににつきます。発航のときにサポートの一人が翼端を持って一緒に走って、3秒ほどですぐに離陸してしまうんです。でもジェットエンジン付きの機体は最初の加速がタラタラという感じなので、翼端が地面についちゃったりする。それでアウトリガーを追加したんですけど、2010年に機体が完成したときにはアウトリガーが付いていなくて、滑走テストで走れないとか、エンジンが壊れたこともあって、また時間がかかってしまいました。

でも、そういう失敗も含めて作品とい

うか、最初から完璧にいくとは思っていません。これが納期や締切のある仕事だとあせるかもしれないけれど、危険が伴うから、焦らずなるべくいい飛行コンディションでやるべきですし。途中で本を出したり展覧会やったり、寄り道といえば寄り道ですが、いろいろ見てもらつたほうがいいかなと思っているんです。

まだ誰も見たことも飛ばしたこともない飛行機ですから、航空局などにたくさんの書類を提出して試験飛行の許可をもらう必要があります。その審査にも思ったより時間がかかるって、2013年7月に、ようやく許可が下りました。」

### 飛行場を探しながら 練習フライトを繰々と。

◎許可が下りたその月の23日、野田市スポーツ公園においてM-02Jによるジャンプ飛行に成功。4回目のジャンプで、スパン9.6mの翼が高度約2.5mを飛んだ。飛行時間11秒、飛行距離130m。短いフライトではあるが、それは、ずっとめざしてきたゴールまであとワングライドというところまで来たと実感できる、記念すべきフライトだった。

「あとから『多くの人の夢がかなった瞬間だった』と思いましたが、初めて飛んだときは嬉しいとかあまり感じなくて。飛ばれる方はよくご存知でしょうけれど、ランディングするまでは集中してますし、ランディングしてからも強風が吹いたりして、機体を安全なところに置くまでは油断ならないので。もちろん、きれいにティクオフできると一瞬は嬉しいんですけど、『はい、次はランディングに集中!』という感じですね。

今はまだきれいなランディングが半分ぐらいの確率でしかできていなくて、ちょっと失速気味になつたり片翼つきそうになつたり。10回中10回きれいに降ろせるところまで、練習しないといけないと思っています。」

◎この冬はプロジェクトの最終段階である場周飛行をめざして練習を重ね、また、より安全に場周できる飛行場を探すという。

「法律では、こういう試験飛行の場合は二段階で許可が下ります。第一段階というのは3m以下のジャンプ飛行、第二段階になると場周飛行なんですが、その前に20本のジャンプ飛行に成功しなければならない。たぶん倍ぐらいは飛ぶんじゃないかなと思っていて、秋から冬にかけて飛びやすくなるので、練習フライトを重々と行おうと。」

それから、冬の間に場周試験飛行に適した飛行場を探そうと思っています。

いまは野田市スポーツ公園で練習していて、ここは東京に近くて非常に広くていいのですが、横に利根川が流れているので……場周飛行だと2回川越えしなくちゃいけないんですね。日本だと河川敷の飛行場が多いですから、飛行

場から離陸して川を越えて飛んで、また川を越えて戻ってくる。小さな川だったらいいんですが、利根川はけっこう川幅があるので、最初の段階ではあまり越えたくないんです。

フラットで周辺に住宅があまりなくて滑走路が500mあれば十分です。このJHFレポートを読まれている方でそういう場所をご存知の方は『こんな場所があるよ』と教えてもらえたならありがたいです。」

## 安全にきれいに 最後の場周飛行まで。

◎アーティストの作品としての自作航空機、さらに、あのメーヴェのような機体。誰もが「これが本当に飛ぶんだったら見てみたい」と思うだろう。八谷さんが四戸さんにこの機体作りを依頼するとき、大切にしたのは何だったのだろう。

「機体作りで一番重視したのは、安全に飛行できることですね。事故が起きてジブリに迷惑がかかったり、スカイスポーツ全体が危ないものだと思われたら困りますし。」

誰も怪我しない、機体も壊さないというのが、このプロジェクトの目標なんです。安全にきれいに最後の場周飛行まで行って、はじめて『成功!』です。

翼の上にパイロットが乗っているから一見ピッチ安定が低そうに見えますけれど、実は人間が上にいても下にいてもあまり変わらないんですね。上に乗っているから意識的にピッチコントロールをする必要はありますが、特にハンンググライダーと比べて不安定ということはないんです。

ハンンググライダーなどで飛ぶ人は、旅

客機で飛ぶことに飽き足らない人だと思いますが、そういう「鳥のように、自分の思うように飛びたい」という欲求は、実は多くの人にあると思うんです。劇中のメーヴェに憧れた人は多いから、そのイメージを活かして、なおかつ『鳥のように飛びたい』という多くの人の欲求の具現化に近い機体として成立させたいですね。ただ、僕の機体は量産しないので、その分ハンンググライダー・パラグライダーなどで空を体験する人が増えればいいな、と思います。」

## 八谷和彦さんプロフィール

1966年、佐賀県生まれ。メディアアーティスト。九州芸術工科大学(現九州大学芸術工学部)画像設計学科卒業後、コンサルティング会社勤務を経て、株式会社PetWORKSを設立。作品に「視聴覚交換マシン」や「ポストペット」などのコミュニケーション・ツールシリーズや、ジェットエンジン付きスケートボード「エアボード」など。2010年より東京藝術大学先端芸術表現科准教授。

## 参考資料

「ナウシカの飛行具、作ってみた」幻冬舎刊

なぜこの架空の機体を現実の翼としたのか、発想からジャンプ飛行まで、背景や舞台裏まで、八谷さんが語っている。本のカバーをはずすと、M-02Jの三面図が現れる。

## JHF会員の皆様にお願い

インタビューで話されたように、八谷さんは場周飛行に適した場所を探しています。情報をお持ちの方は、JHF事務局にご連絡ください。

## ハンンググライディング競技委員会からお知らせとお願い

### JHFハンンググライディングシリーズ 登録選手各位

現在、ハンンググライディングシリーズの大会では、大会公式無線として航空レジャー無線機とデジタル無線機を併用しています。

しかし、JHF保有の航空レジャー無線機は老朽化が進んでおり、近年は使用不能機が増えました。今後、他の公認大会や後援イベントと開催時期が重なった場合、十分な数を確保できなく

なるおそれもあります。

登録選手の皆様のご協力により、デジタル無線機の普及率も高まってきましたので、競技委員会では、2015年度(2015年1月1日~)から公式無線をデジタル無線機に統一することを決しました。

2015年以降のハンンググライディングシリーズ大会では、デジタル無線機の装備が必須となります。

2014年度は移行期間としますので、

デジタル無線機をまだお持ちでない方は、できるだけ早期に入手されるようお願いします。

JHFハンンググライディング競技委員会



HGシリーズ登録パイロットの皆さん、ご協力を!

# 観客に祝福される大会をめざして。

2013年パラグライディングアキュラシー日本選手権in南陽

9月28日・29日 山形県南陽市南陽スカイパーク 報告:副実行委員長 金井 誠

## 美しい雲海が選手を歓迎

選手権初日、高気圧の中心は東に移り、本流は東風ながら(十分一山は南から西風に適したエリアです)快晴に恵まれ、放射冷却で濃い霧が発生しました。北は宮城、南は愛知の各地から集まった選手の皆さんには十分一山の秋の風物詩である美しい雲海を楽しんでいただけました。

開会式が終わる頃にちょうど視界が開け始め、競技開始。第1ラウンドは、逆転層に守られた朝風の中で日野選手がDC(0cm)を出すなどハイレベルな戦いが繰り広げられました。その後、第2ラウンドの途中から本流の東風が吹き込み始め、初日の競技は終了。

夜の歓迎レセプションには、南陽市長を始めご来賓の方々とJAA小柳航空スポーツ室長、JHF内田会長、選手、スタッフの皆さん、総勢90人が市内の中央公民館「えくぼぶらざ」に集まり、日本代表メンバーによる世界選手権報告やラウンドトップ賞の表彰等で楽しいパーティになりました。

## 粘って第6ラウンドまで

2日目は日本選手権を何とか成立させたいと7時15分に集合。テイクオフからターゲットが見えてくると同時にゲートオープン。第2ラウンドの残りの選手から順次スタートして、順調に第4ラウンドまで終了。次の第5ラウンドが成立すれば各人の最悪のスコアを削除できるため、このラウンドが成立するかどうかで順位が大きく変わります。

選手の皆さんもスタッフの皆さんも何とか第5ラウンドまで成立させたいと最善を尽しましたが、7人目が飛んだところで東風が吹き込み始め、ゲートクローズ。

ランディングにも強めの東風が入り込み、通常ならばこれで終了という状況で



雲海からランディングが見えたら競技スタート。

したが、スカイフェスティバルの露店でアイスを食べ、焼きそばを食べながらも諦めない選手の願いが天に通じたのか、暖まった盆地からホワホワとした風が届き始め、周辺が無風になったりテイクオフが弱く上げ始めました。

即、ウインドダミーを出して競技再開。時折テイクオフクローズしながらも第5ラウンド成立。

最終の第6ラウンドに突入しました。最終ラウンドはそれまでの成績の逆順でスタート。暫定2位の横井選手がパットスコア7cmと気合の入ったフライトでプレッシャーをかける中、暫定トップの川村選手がテイクオフ。最後に残っていた選手のリランチが成功し、2日間で6ラウンドが無事に成立。横井選手



子供パラグライダー教室は大人気。



日本選手権を勝ち取った横井選手。



日本選手権者、横井選手と東武選手。



選手・スタッフみんなで「おつかれさま!」。

が逆転して日本選手権者に、東武選手が女子日本選手権者に決定しました。

#### 競技にしのぎを削るだけでなく

広く社会にスカイスポーツを普及させていくためには、地域の方々にエリアに足を運んでもらって実際に飛びところを見てもらおう!ということで、テイクオフ周辺では様々な催しも展開されました。「パラグライダー教室」や「凧作り教室」には子供たちが大勢参加してくれました。PGメーカーや色々な食べ物の露店が軒を連ねて、選手は競技の合間に山形名物のいも煮を食べたり、お店を回ってリラックスしていました。

来場者も色々なお店を見たり、食べ歩きながらパラグライダーのテイクオフを見物していました。地元「山形鉄道」ベースや「えぼし窯」陶芸展も開かれ、各地から訪れてくれた方々にはアピールになったようです。

競技の風待ちの間にはラジコンヘリコプターショーも行われ、選手も観客も一緒に見入っていました。選手が競技にしのぎを削るだけでなく、多くの観客に祝福されるような大会を目指して、併催行事にも力を入れた今大会は選手の皆さんにも好評でした。

選手・スタッフの皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

#### [スクランチ総合]

1位 横井 清順	静岡県
2位 東武 瑞穂	千葉県
3位 吉富 周助	山梨県
4位 岡 芳樹	東京都
5位 伊藤 まり子	愛知県
6位 菅野 剛広	宮城県

#### [女子クラス]

1位 東武 瑞穂	千葉県
2位 伊藤 まり子	愛知県
3位 菊田 久美	宮城県

#### [ハンディキャップクラス]

1位 伊藤 まり子 愛知県

2位 丹野慶太朗 宮城県

3位 矢野 啓 山梨県

#### [ルーキークラス]

1位 白井 紀人 神奈川県

2位 小松 理樹 茨城県

3位 鈴木 洋史 福島県

#### 日本選手権者から

##### □横井 清順

アキュラシー競技があることを誰も知らない頃。今日もやりますか、とビールを賭け、校長（西野光夫）とターゲット勝負。最初は私がパシリの様にビールを買っていました。いつしか、今日もやりますか?と誘うと、校長は「もうやらない」…勝ち逃げ? そう、もう私の方が勝つことが多くなり、ある意味認めたということかなと理解する。その頃から午後3時頃になるとターゲットの真ん中に風船を置くようになり、これを割ると山に響くこだまが気持ち良い。

そしてアキュラシー・リーグ戦が始まる。「あっ、これだー」と申し込み、最初は年間5位になり、世界に行ける位置に。でもリトニアは内容を聞くとマイナス20度ではキャンセルになるルールとか。え、なにそれ、そう、凍った湖でトeing。寒すぎて私は辞退。その後の世界選には出ています。

年間5位以内には入りますが、年間トップ、日本選手権者にはまだでした。自称2位の私、今回も頼むから4ラウンドで終わって、と思っていると、隣に5ラウンドで終わってとそわそわする者が。そう、4ラウンドで終わると私がトップ。5ラウンドで私は2位。またか、と落ちしている間に5ラウンドが成立。隣で「やったー」とガツポーズをする本人は、もう帰り支度も終わって機体はバッグの中。しかし、6ラウンドがオープンしま

す。最終ラウンドは成績の逆順でテイクオフ。私は最後から2番目にテイクオフ。ターゲットのことだけ考えパッドを踏んで7cm。1位との差18cm。ハーネスを着たまま川村選手を見る。お、届かない。やったー。川村選手がまだ下りてないのに握手攻め。感動。気持ちが良い。今後も年間トップを狙います。

お世話になったスタッフ、選手の皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。

##### □東武 瑞穂

日本選手権で総合2位また女子優勝という好成績が認められたこと、大変嬉しく思います。女子優勝も嬉しいですが、総合の優勝争いに加わり2位という結果を残せたことが、自分にとって喜ばしくまた貴重な経験となりました。

この大会は、ラウンド毎のコンディションの変化が大きく、思うようにパットを踏めませんでした。結果スコア的には決して満足のいくものではなく、精神的に苦しい試合でした。5ラウンド目でようやく自分のライトができ、パットを踏めた時は嬉しかったです。自分を信じ続けたこと、気持ちを切らさず、大きなスコアを出さなかったことが今回の勝因だと思います。どんな時も諦めずに、強い気持ちを持って試合に臨むことの大切さを改めて学んだ大会でした。

最後に、アキュラシー競技に情熱を傾けている横井さんが、念願の日本選手権者になれたことを同じ競技仲間として心より祝福いたします。

日ごろ応援してくださる皆様、アドバイスをくださる先輩方、共に切磋琢磨し励まし合える仲間とチームメンバーの皆さん、そして、熱意を持って細やかに指導してくださる水野コーチに感謝申し上げます。いつもありがとうございます。より上手に、より強くなれるようこれからも頑張ります。

# 2013年ナショナルランキング 年間チャンピオン決定!

リーグ戦を勝ち抜き頂点に立ったパイロットたち

12月31日で2013年の競技シーズンが終了。ハンググライディング、パラグライディングとともに、1年間のリーグ戦のランキングが確定しました。それぞれのリーグ／クラス上位者は下記のとおりです（数字は獲得ポイント）。頂点に立った選手の皆さん、おめでとうございます。そして大会の企画運営に尽力された皆さん、お疲れさまでした。（ランキング詳細はJHFウェブサイトの各競技委員会のページでご覧いただけます。）

## ハンググライディング

### ハンググライディングシリーズ

#### [総合]

1位 鈴木 博司	4137
2位 平林 和行	4012
3位 加藤 実	3948

#### [女子]

1位 磯本 容子	3315
2位 野尻 知里	3171
3位 鈴木 皓子	2690

#### [世界戦選抜総合]

1位 板垣 直樹	217.87
2位 砂間 隆司	217.38
3位 太田 昇吾	215.04

#### [世界戦選抜女子]

1位 磯本 容子	174.26
2位 野尻 千里	142.61
3位 鈴木 皓子	138.91



総合1位  
鈴木 博司

まず、各大会を準備運営して下さいました皆様とハンググライディングシリーズを運営していただいている競技委員会の方々に御礼申し上げます。

ハンググライディングシリーズでの優勝は今回で2度目ですが、日本選手権とのダブルタイトルは初めてで、喜びもひとしおです。2011年、2012年とハンググライダーの大会から離れていたこともあり、当初は競技感が鈍ってはいないか心配でしたが、逆にブランクが自分自身をフライト中冷静にすることができ、良い結果に繋がったような気がします。

ただ、以前に比べ大会に参加する選

手が減少してきていることが残念でなりません。これはスカイスポーツ界全体にも言えることですが、ここ数年各地でフライヤー人口が激減しており、このままの状態ではエリアの維持が難しくなるところも現れてきています。

私も、私なりにスクールや体験会を通してハンググライダーの普及活動を行っていますが、私たち業界の者だけではなく、フライヤーそれぞれの安全意識の向上も普及のためには大切なことだと思います。私たちの自由な空を守り、フライヤー仲間を減らさないことはもちろんのこと、さらに増やしていくためにも、個々の意識改善と行動が必要な時期でないかと思います。



#### 女子1位

磯本 容子

2013年ハンググライディングシリーズランキングにおいて、女子優勝を収めることができ嬉しく思います。

今回は、キスカと日選の成績が採用されました。両大会とも集団でのフライトができず一人旅ばかりでしたが、ホームの強みと、日選特有の係数に助けられ

ての結果と捉えています。

2014年は、日選での収穫を活かし、苦手な関東エリアを克服し、総合トップ10入りを目指したいと思います。

## パラグライディング

### ジャパンリーグ

#### [コンペクラス総合]

1位 植田 真吾	6474.7
2位 成山 基義	6281.5
3位 岩崎 拓夫	6018.9

#### [コンペクラス女子]

1位 伊藤 弥生	4950.8
2位 平木 啓子	4727.2
3位 井川 絵美	4310.3

#### [スポーツクラス総合]

1位 村上 修一	4987.3
2位 井川 絵美	4310.3
3位 田中 健	4150.4

#### [スポーツクラス女子]

1位 井川 絵美	4310.3
2位 中目 みどり	4117.1
3位 高田 奈緒	3979.6

#### [国際大会選抜]

1位 岸本 圭樹	322.6
2位 上山 太郎	305.5
3位 成山 基義	266.4

## 2013年競技を振り返って

ハンググライディング競技委員長 板垣 直樹

2013年のハンググライディングシリーズは日本選手権の一大会で決ました!と言っても過言ではないだろう。

日選係数1.1による1000点越えのポイントを持つ選手が13人も出たため、日本選手権のポイントをしっかりと取った選手がランキング上位を占めることになった。

シリーズで象徴的だったのは、1位に輝いた鈴木選手だ。数シーズンぶりに競技復帰し堂々の1位は見事とか言いようがない。3位の加藤は日選とEJC、9位の松村は日選のみ出場でトップ10入りを果たしている。

一方で昨年と今年の累計のポイントで決まる世界選抜ランキングは、出場

大会の全てで上位に入った、板垣・砂間・太田がトップ3となる。ベテランを追いかける中堅選手が確実に実力をつけてきていることが窺える。

女子1位の磯本は総合成績で15位、2位の野尻は総合で21位と、2人の実力が抜け出していて、鈴木皓子らが追いかけるかたちになっている。今年6月のフランス・アヌシーの世界選手権は、選手層の厚い日本女子チームの活躍が楽しみなところだ。

※国内ランキングでの日選係数1.1は1000点満点のルールと整合性がとれないので、2013年をもって廃止されました。また、世界選手権選考ポイントでは日選係数は継続しています。



**コンペクラス**  
**総合1位 植田 真吾**

2013年度から、再び、ジャパンリーグへの出場を始めました。

私の人生の半分は、パラグライダーに染まっています。そろそろパラグライダー競技のピークが来たような気がして、2013年度Jリーグランキングの上位を狙い、2015年の世界戦を目指して、出発しました。

全戦の出場は無理でしたが、できるだけ出場できるように頑張りました。タイミング良くBOOMERANG9に乗り換えてから好成績が取れるようになり、2013度Jリーグルールにも助けられ、1000点を3本取ることができました。日本選手権では堅い飛びをして日本選手権者となり、リーグ戦では1000点狙いの飛びをしたわけではないのに1000点を獲得し、結果、ランキング1位をいただき、最高の1年でした。2014年も、Jリーグ頑張ります。

最後に、各エリアの大会関係者・競技者・私を支えてくださった方々に感謝します。ありがとうございました。



**コンペクラス**  
**女子1位 伊藤 弥生**

念願のリーグ女子優勝を果たすことができました。ありがとうございます。

2011年、2012年と、終盤戦で逆転され2位に終わり、悔しい思いで迎えた2013年。大会タスク成立本数の増加に伴い、計上本数が最大の5本となり、より熾烈なランキング争いとなりました。そのようななか、総合17位、女子1位という結果を残すことができ、嬉しく思います。

今まで30位以内シードを目標としてきましたが、これからは総合シングルを目指します！そのためには平均より大きな点数が必要となります。無難にこなすレースではなく、攻めていかなければ手に入らない数字、そういう飛びが2014年からの自分の課題となりそうです。

2013年は女子が5人シードに入る結果となりました。体重が軽いと不利な競技ではありますが、現在Jリーグ女子は雰囲気も明るく楽しく、お互いが切磋琢磨しあい、平木さんという明確な目標が



2013年パラグライディングアクュラシー日本選手権in南陽より。2012年トップランナーの岡選手。

あることで、格段にレベルアップしてきています。競技を通してスキルアップし、女性でも安全で自信に満ちた飛びを目指して、より多くの女性フライヤーがJリーグ競技に参加することを期待しています。



**スポーツクラス**  
**総合1位 村上 修一**

2011年から2012年の秋にかけて、仕事の都合で殆ど飛べなかったので、モチベーションを取り戻すためと、リハビリも兼ねて、2012年10月頃に、EN-CのTrango XC2を購入しました。暫くぶりに飛び始めてみると、すぐ飛ぶ楽しさが戻ってきました。

仕事が落ち着いてきたこともあり、2013年シーズンは殆どの国内戦に参加できました。なかでも、吉野川、足尾日選、朝霧で、1000点以上の点を獲得できたのが大きかったと思います。スポーツクラス機の性能が上がっており、コンペクラスの機体と一緒に飛んでいて性能負けしない場面も多々あって、楽しく飛ぶことができました。

もちろん、大会を運営されている皆様のご協力も大きく、盛大なレセプションや、飛べなかった時の気遣いなど、やっぱり大会は楽しいなと再認識した年でもありました。ルーマニア、インドと、海外の大会にも参加して、海外の仲間も増え、2014年シーズンも色々な大会に参加したいと思います。

最後に、競技委員会の皆様、一年間お疲れ様でした。2014年シーズンもよろしくお願い致します。



**スポーツクラス**  
**女子1位 井川 絵美**

Jリーグに参戦して3シーズン目となつた2013年は、「1回でも良いから1位の表彰台に乗ってみたいなあ…」と、夢みたいに思っていました。

それが、春の吉野川戦でまさかの女子優勝、さらに年間リーグでスポーツクラス女子優勝という結果をいただけて、本当に嬉しいです。

いつもレースの後には、講習生の頃から見守ってくださっているJリーガーの先輩パイロットが「ここでちゃんと上げないと!」「あそこはサーマル捨てて進んで良かったのに!」と沢山のアドバイスをくれ、自分の飛びへの反省もあり、喜びもあり、新たな発見もあり、とても楽しいひとときとなっています。そのお陰で、今シーズンはレース全体を把握するように心掛けたり、ペースやコース取りを検討したりと、少しずつコンペチターラしいこともできるようになってきたように思います。いつもいつも、ありがとうございます!!

さらに、初めてワールドカップにも参加する機会が得られ、世界のレベルと自分のレベル(技術も、知識も、経験もないなあ… )を知ることができたので、2014年シーズンも、めげることなく一歩一歩着実に成長していけたらと思います。本当にありがとうございます。

**アクュラシージャパンリーグ**  
**[スクランチクラス総合]**  
1位 吉富 周助 166.5

2位	横井 清順	162.9
3位	東武 瑞穂	150.5
[スクラッチクラス女子]		
1位	東武 瑞穂	150.5
2位	伊藤 まり子	89.8
3位	内田 薫	46.9
[ハンディキャップクラス総合]		
1位	伊藤 まり子	134.2
2位	臼井 紀人	105.1
3位	丹野 慶太朗	103.8
[ハンディキャップクラス女子]		
1位	伊藤 まり子	134.2
2位	柳井 維都花	49.3
3位	内田 薫	46.2
[ルーキークラス]		
1位	臼井 紀人	65.4
2位	小松 理樹	57.4
3位	鈴木 洋史	23.6
[国際選抜選手選考]		
1位	横井 清順	271.0
2位	岡 芳樹	247.6
3位	吉富 周助	230.7



### スクラッチクラス

#### 総合1位 吉富 周助

飛びの最後にあるランディングに楽しみと喜びを感じ始めた頃、アキュラシー競技の存在を知りました。スカイ朝霧での日本選手権に何も分からぬまま無謀にエントリーしたのがちょうど4年前。結果は堂々の最下位。当然の結果ですが、やる気のほうはそれに反し急上升していきました。夢は「日本のトップクラスになるぞ」でした。次年度からリーグにも登録し、できる限り参戦しました。

練習は大好きでした。よいサーマルから逃げ、ひたすらターゲットを狙い続けました。練習あるのみの日々を繰り返していました。しかし、練習はバッチャリ、試合ボロボロ、結果が出せない時期が長く続き、メンタルの弱さを痛感していました。そんな中、2013世界選手権日本代表として出場させていただいた経験が、ガラリと自分を変えたような気がします。国際経験豊富な先輩方のアドバイス、仲間同士の励まし、一流選手の技などすべての体験が体にしみ込んで成長したように思えたのです。帰国後、紀ノ川の大会、朝霧の大会とも良い結果を残すことができました。

現在の夢は「団体戦世界1位」です。皆で成し遂げたいです。

最後になりましたが、アキュラシーとの出会いに、JHFはじめこのような機会を与えてくださった方々、応援していただいた方々に、そしてティクオフまで何回も上げてくれたスカイ朝霧のスタッフの皆さんに、心より感謝いたします。これからもよろしくお願ひします。



### スクラッチクラス

#### 女子1位 東武 瑞穂

2013年アキュラシージャパンリーグで、総合3位また女子優勝することができ、大変嬉しく思います。

最終戦の前までリーグトップでしたが、リーグ後半で精神的な弱さや技術力不足のため思うように成績を伸ばせず、総合3位まで落ちたことはとても残

念でした。しかし、2013年シーズンすべての試合で、入賞と女子優勝ができたのは、価値あることだと感じています。

また獅子吼の大会で、アキュラシーリーグ女性初の総合優勝ができた時は、とても嬉しかったです。

2013年シーズンに感じたのは、全体のレベルが上がってきていることです。なかでも女子の上達とやる気は目覚しいものがあります。

今後、女子も総合で競える選手が増えると面白いですし、そう先のことではないと思います。そんな女子選手たちの先駆けになれたら嬉しいです。

私の目標は、常にパットを踏み、一ケタのスコアを出し続けられる選手になることと、総合で表彰台に立つことです。良い集中力と強い意志を大切にして、

## 2013年競技を振り返って

パラグライディング競技委員長 岡 芳樹

### □ジャパンリーグ

2013年ジャパンリーグ(Jリーグ)は9戦が開催され、7戦が成立した。またタスクでは19タスクのうち12タスクがDQ0.2以上で成立し、5タスクの合計でランキングが決定された。リーグ登録者は115名であったが、実際に参戦しポイントが付いたのが95名であった。

トップに立ったのは、なんと、2013年からJリーグに参戦した植田選手。平均でもポイントは高く、安定した強さを示している。2012年1位の成山選手は全戦に参加し植田選手を追ったが、わずかに及ばなかった。女子では全戦に参加した伊藤選手が、女王・平木選手を抑えて1位となった。

一般的には参加選手の顔触れがほぼ変わりがなく、新しい選手が参加するようになっていないことがちょっと懸念される。今後のJリーグの活性化には新しい選手の参加が不可欠であると思う。活性化を目指してJ2リーグも立ち上げているが、いかんせん大会主催者が少なく、リーグ戦になっていない感じは否めない。スコアリングが分かり難く大変そうだと思って大会の開催を躊躇しているならば、競技委員会からスコアラーを派遣する(競技委員会の費用で)ので、ぜひ声を上げて

### □アキュラシージャパンリーグ

2013年のアキュラシーリーグは7戦が開催され、7戦が成立した。参加選手は前年の34名から44名と10名の増員となり、少しずつではあるがアキュラシーの面白さが浸透してきたのはと期待している。今後に向けて更なる活性化を図りたい。2013年に特に注目されたのは、2010年から参戦し始めた若手(?)の吉富選手が、これまでほぼ固定化された感のある上位陣に食い込み、リーグチャンピオンに輝いたことだ。しかも、2013年の世界選手権では日本チームのトップとなる16位と、健闘した。

アキュラシーは、競技として比較的新しく、大会に参加するための敷居も低い(NP技能証以上)ので、どんどん新しいパイロットに競技の面白さを浸透させてゆきたいと思っている。これまで競技人口並びに大会が西低東高であったのを変革する試みとして、2013年は関西で2大会を開催した。残念ながら舞鶴はコンディションに恵まれず不成立となったが、紀ノ川は5本成立で大成功であった。今後も西サイドでの大会を開催して、活性化が図れたらと思っている。

試合を楽しみながら、自分の理想とするフライトを目指したいです。

また、私の強みは大きなスコアを出さないことです。良い部分を伸ばしつつ課題を修正し、より進化していきたいと思います。

アキュラシーの上達に誰よりも努力されている吉富さんがリーグチャンピオンになれたこと、同じ練習仲間として大変嬉しく思います。おめでとうございます。

いつも多くの方々に応援していただき、ありがとうございます。より上手に、より強くなれるようこれからも頑張ります。



ハンディキャップクラス  
総合・女子1位 伊藤まり子

アキュラシー競技を始めて2年目の2013年シーズン、ハンディキャップクラスで1番という好成績は予想外でとても驚いています（本人も含めて誰も予測できなかつた結果でしょう！）。

これは、どの大会にも初心者に優しいスタッフや先輩たちがいて、ラウンド毎にランディングでアドバイスしていただき、ドキドキしながらも見守ってくれる安

心感の中で大会に参加できたおかげと感謝しています。

また、夏に世界選手権に参加させていただいたことで、経験値が一気に上昇し、楽しむだけではなく結果も求めないと、気持ちが変化してモチベーションも上がりました。世界選手権では最後まで諦めないこと、今感じている風を感じることが大切だと学び、アキュラシー競技の奥深さを知りました。

まだまだ詰めが甘く、技術的にも発展途上で、見ている人をヒヤヒヤさせるようなことも多々あるので、綺麗で確実なランディングスタイルで、パットの真ん中にある黄色い点がいつでも狙えるように、スクランチクラスでも上位を狙えるように、楽しみながら練習していきたいと思います。

アキュラシーリーグのほんわかした雰囲気は、初心者を優しく迎えてくれます。ターゲットの真ん中に「足で」降りるだけの単純な競技ですが、だからこそ奥が深くて面白い、この楽しさを共有できる仲間がもっと増えることを願っています。

## 送電線に接近しない! 接触しない!

12月2日、埼玉県東松山市において飛行中のモーター・パラグライダーが送電線に接触、約3時間宙吊りになる事故が発生しました。

今回は、幸いにも感電等による人身被害はなかったものの、送電線へ接近・接触した場合には感電する恐れがあるなど、重大な災害につながる可能性があります。

また、接近・接触に伴い停電した場合には、交通機関や病院・工場などへ影響を及ぼす可能性もあります。高額の賠償金も必要になります。

フライトの際には、まず電線の存在を知ること、そして不用意に近づく事態を招かないようご注意ください。

## 2013パラグライディング日本選手権 in足尾 日本選手権者から

9月20日から23日まで茨城県足尾エリアで開催の「2013パラグライディング日本選手権in足尾」で、日本一の座を獲得した選手からの喜びの声です。（競技報告はJHFレポート前号12～13ページをご覧ください。）



日本選手権者  
植田 真吾

パラグライダー競技を始めて13年。一度は取りたいと思っていたタイトル、それも、私と相性の良い足尾エリアでの大会。一本一本のタスクで幸運も重なり、何とか全てのタスクでトップ5に入り、うまく優勝することができました。

しかし、まわりの選手の技術が高く、1本もタスクトップが取れず！ レースを引っ張ることもなく、ついていくのが精一杯のフライトでしたが、全タスクで大きなミスなくレースを終えたのが、優勝へつながりました。

このようなレースを日本でできたことも、すばらしいエリアと、すばらしい選手のお陰だと思います。

私の2013年の目標以上の賞をいただいた気がします。2014年度もより良い飛びができるように心がけて練習に励み、これからも頑張ってレースを続ける予定です。

今回は、本当に運よく日本選手権者に成れたことを、喜しく思います。ありがとうございます。



女子日本選手権者  
平木 啓子

前年失ってしまったタイトル、日本選手権女子チャンピオンを奪還できて、本当に嬉しいです。2012年の苦い経験を胸に緊張して望んだ初日でしたが、ティクオフが遅くなってしまい、うまくコンディションを掴めずに今ひとつスタートとなってしまいました。しかし2日目・3日目はエリアの方からいいアドバイスをいただくなどしたことも幸いして、つくばの空を満喫しながらとてもいいフライトができ、まずは順位でゴールすることができました。そしてチャンピオンの座に返り咲きました。

日本の女子のレベルも徐々に上がって来ていて容易には勝たせてくれなくなりましたが、それはとてもすばらしいことだと思います。これからも飽くことなく驕ることなく上を目指さなくては、と気持ちを新たにする大会となりました。いつも応援してくださっている皆様に応えられるようますますがんばりたいと思います。

大会を運営して下さいました皆様、大変お疲れ様でした。すばらしい大会をありがとうございました。

### 平木、日本記録更新!

パラグライダーの日本記録が更新されました。平木啓子さんが2013年11月19日にブラジルで成し遂げた直線距離332km（キシャダ～ビリビリ）の飛行が、一般財団法人日本航空協会により、パラグライダー日本記録更新として12月24日に認定されました。

一般としても女子としても日本記録更新です。平木さん、おめでとうございます！

## JHFからのお知らせ

### ■ PG教本基礎技術DVD頒布中

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、続いて第2弾「ティクオフとランディング」を頒布しています。

「JHFパラグライディング教本基礎技術」には、JHF教本のA・B級からクロスカントリーまで各課程を修了するために求められる基本的なフライト技術について、ベテラン教員による模範演技を収録しています。実際の飛行での操作を、複数の方向から近接撮影したものが2画面で表示され、各操作での動きをはっきりと見ることができ、判りやすく表現されています。リアライザーコントロールでの引きしろとブレーキコードでの場合との違いや、A・Bストールを行ったときの翼の変形の様子などもわかります。

第2弾は、フライトの基本中の基本であるティクオフとランディングを収録しており、フロントライズアップの基本から場周アプローチによるランディングまで、各操作のポイントをつかみやすい内容です。

#### 価格・入手方法:

頒布価格はそれぞれ1枚1,500円(送料込)で、お申し込み30枚毎に1枚追加してお送りします。入手ご希望の方は、最寄りのスクールでご購入いただぐか、JHFウェブサイトにて注文書をダウンロードのうえお手続きください。

### ■ 表彰メダルデザイン締切間近!

ハンググライディング／パラグライディングの競技会やナショナルリーグの成績優秀者にJHFが授与する金・銀・銅メダルのデザイン(1種)を募集しています。コンペティターたちの胸に輝く素敵なメダルを考えてください。採用デザインの作者にはQUOカード5000円分を贈呈し、作品をJHFウェブサイトで公表します。

条件:以下3点を満たすこと

◇直径5.6cmの円形メダルに収まるデザインであること  
◇各日本選手権、ハンググライディングシリーズ、パラグライディングJリーグ・J2リーグ・アキュラシーリーグ、学生連盟バラ・ハングリーグなどでの表彰に使用するため、ハンググライダーとパラグライダーの両方が表現されていること

◇JHFの英文表記Japan Hang & Paragliding Federation(またはJAPAN HANG & PARAGLIDING FEDERATION)が明記されていること

応募方法:デザインを2MB以内の静止画ファイル(jpgまたはgif)にして、メールに添付送信してください。

送信先:entry@jhf.hangpara.or.jp

応募締切日:2014年1月31日(金)

(製作上の都合でデザインに手を入れることもあるのでご了承ください。)

### ■ JHF備品を貸し出しています

JHFでは下記備品の貸し出しをしています。ご希望の方は「JHFウェブサイト」→「JHFのご案内」→「無線機その他備品貸出」より貸出依頼書をダウンロードし、必要事項を記入・入力して、FAXかメールでお申し込みください。備品の返却にかかる送料はご負担をお願いします。

#### ◇自動体外式除細動器(AED)

公認大会やイベント主催者に無料で貸し出し。申込条件:消防署や日本赤十字社等のAEDを使った救命法講習会を受講した方がいること。

#### ◇ポロジーメーター

パラグライダーキャノピー等のエア漏れを計測する機械。スクール・クラブ等を対象に貸し出し。貸出期間は2週間以内。貸出料5,000円。

#### ◇スカイレジャー航空無線機

スカイスポーツ専用の周波数で使う無線機(465.1875MHz)。JHF会員を対象に、大会やイベントでのご利用のために貸し出し。貸出料は1,000円/台。申込条件:ご利用者の中に「第三級陸上特殊無線技士」免許を持ち、JHF無線従事者に登録している方が1名以上いること。

#### ◇アルコール検知器

大会やイベント主催者に無料で貸し出し。前夜の飲酒がフライトに影響することもあります。事故防止のために新たに導入しました。ご利用ください。国際航空連盟(FAI)もアンチドーピングの禁止物質にアルコールを指定しています。

### ■ 住所変更届けのお願い

JHFからお送りした登録更新案内やJHFレポートが「転居先不明」等で多数戻って来ます。また、登録更新のため

の会費送金手続きをコンビニでされた方、会費を口座振替にされている方へお送りした会員証も多く戻って来ています。コンビニから送金の場合は、払込票に新しいご住所をご記入いただいても控えが事務局に届きません。銀行口座振替の場合も住所変更の連絡は来ません。

住所を変更された方は、お手数ですが、下記項目をメール、FAX、郵便などでご連絡ください。

フライヤー会員No.／お名前／変更後のご住所／連絡先電話番号／メールアドレス

### ■ 各種お申込みやお問合せは

#### JHF事務局へご連絡ください。

公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015

東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889

FAX.03-5834-2089

E-mail : info@jhf.hangpara.or.jp

<http://jhf.hangpara.or.jp/>

\*賛助会員からのお知らせを同封しています。また、神奈川県、福岡県在住の方にはそれぞれ神奈川県ハング・パラグライディング連盟、福岡県ハング・パラグライディング連盟からのお知らせも同封していますので、ご覧ください。

## 東日本大震災被災地復興応援プロジェクト「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

#### ◇ 義援金振込先

三菱東京UFJ銀行(銀行コード0005)

巣鴨支店(店番号770)

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

## JHFレポート204号

発行日:2014年(平成26年)1月20日

発行:公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟(JHF)

編集:JHF事務局

印刷:株式会社美巧社